

アグリビジネス創出フェア in 東海 Web展示

INPIT 愛知県知財総合支援窓口

- ① 工業所有権情報・研修館 (INPIT) について
- ② 知財総合支援窓口の概要
- ③ 知財の保護活用の必要性が出てくる場面
- ④ 支援事例(農水関係抜粋)
 - 大葉しゅんぎくの地域ブランド化
 - 新生産方式による茸ブランド展開支援
 - 「美味しく輝くミニトマトの栽培、販売」の創業、ブランド化、販売戦略支援
 - 莓のブランド力で農業分野に参入
 - JFぼうぜの地域ブランド戦略支援
 - 地域団体商標の権利取得支援
 - 地域の生活と産業に根差した朝市の活性化の支援
 - 市民一体で市を盛り上げる!NPO 法人による商店街のブランド戦略
 - 「のとキリシマツツジ」の地域団体商標取得支援

中小・中堅企業の皆さんへ

INPIT 愛知県知財総合支援窓口

知的財産に関する疑問や課題をご相談ください

お電話はこちら

052-753-7635



[https://chizai-
portal.inpit.go.jp/madoguchi/aichi/](https://chizai-portal.inpit.go.jp/madoguchi/aichi/)

1. 工業所有権情報・研修館 (INPIT) について



独立行政法人 工業所有権情報・研修館

INPIT (インピット)

National Center for Industrial Property Information and Training

■経済産業省・特許庁所管の独立行政法人

■特許庁と連携し、知的財産（特許・意匠・商標等）に関する総合支援を行う機関

1. 工業所有権情報・研修館 (INPIT) について



◆INPIT事業の三本柱

情報提供

知的財産権（特許・意匠・商標等）の権利状況や審査の経過情報が閲覧できるインターネット検索サービスの提供



権利取得・活用支援

知的財産の権利取得から活用まで幅広くサポートする各種無料相談窓口の設置



人材育成

知的財産に関する研修の開催や、eラーニング教材の提供



2. (1) 知財総合支援窓口の概要



訪問による
支援も実施します！



◆知財総合支援窓口（47都道府県に設置）

中小企業等の経営課題の解決に向けて、
「知的財産」の側面から支援する
地域密着型の相談窓口。

経験豊富な企業OB等が相談対応。



2. (2) 知財の保護活用の必要性が出てくる場面



支援をする中で、以下のキーワードを聞いたことはありますか？

- ▶ 農産品の新しいブランド名を考えた
- ▶ 新しく作った農産加工品に商品名をつけて販売したい
- ▶ 海外展開したい



新たな
事業展開の
フェーズ

知財を意識せずに進めてしまうと、このようなリスクが…

商標侵害の疑いで警告・紛争発生
模倣品・類似品による発注減少
ノウハウの漏洩



知的財産の保護活用の重要性が高まっているかもしれません！

知財総合支援窓口にお気軽にご連絡ください。
知財の観点から、皆さまの支援をサポートします！

支援事例



事例は、知財ポータルサイトの全国の農水関係を抜粋しております。
<https://chizai-portal.inpit.go.jp/supportcase/>

大葉しゅんぎくの地域ブランド化【INPIT 福岡県知財総合支援窓口】

企業情報

北九州農業協同組合

所在地	福岡県北九州市		
ホームページ URL	https://www.ja-kitakyu.or.jp/		
設立年	2009年	業種	農林水産業
従業員数	308人	資本金	-

企業紹介

当組合福岡県の北部に位置し、北は関門海峡と周防灘、玄界灘、南には福地山系を臨み、遠賀川を代表する河川がもたらす豊かな自然に恵まれています。米、麦・大豆類の穀類を始め、国の指定である若松キャベツや濃縮トマト等の野菜や高倉びわ、いちじくなどの果樹、全国的に知られる合馬たけのこや小倉牛など、組合と地域が一体となった産地づくりを行っています。また、農産物直売所を中心に野菜ソムリエの育成、農業体験や料理教室などの食育活動を含め、販売だけではないJAならではの「農と食の総合提案」を実践しています。

相談のきっかけ

大葉しゅんぎくは生産者の高齢化による出荷量の減少や、若者の春菊ばなれによる価格低迷で将来の産地存続にかけりをみせっていました。大葉しゅんぎく出荷組合から、まずは北九州市内での認知度を高め、価格アップを図りたいという相談がINPIT 福岡県知財総合支援窓口にあり、ブランド専門家を派遣して地域ブランド化の支援を始めました。

支援概要

初めは福岡県八幡農林事務所に事務局になっていただいて活動を開始しました。ブランド専門家の指導のもと、大葉しゅんぎく出荷組合の若手が中心になって、ターゲットの設定、ターゲットに設定した子育て世代に向けたネーミングとパッケージ及び料理レシピの検討、拡販施策の検討を行いながら、徐々に事務局を北九州農業組合に移行していきました。

ネーミングは「うまかろーま」とし、パッケージカラーはピンク色を使って親しみやすくしました。大葉しゅんぎくのルーツは下関市にイタリアから持ち込まれて広まったと言われており、下関や小倉地域の生産者や消費者から「ローマ」と呼ばれて親しまれてきました。今回、若い世代や子供たちにもおいしく食べてほしいという願いから、方言の「うまか」と「ローマ」を合わせて「うまかろーま」としました。

また、このネーミングを保護するために弁理士を派遣して商標登録に係わる支援を行いました。（登録第6836131）



支援成果

ブランド専門家とともに計画した施策案にそって、北九州市に協力を仰いで北九州市長への表敬訪問と試食の実施、学校給食での食育のための商品提供、各種イベントにおける試食、スーパーの試食コーナーなどを通じて多くの人にうまかろーまを食べていただける機会を増やしてきました。またイベントではネーミングを覚えてもらえるよう、「うまかろーま」のぼりを使ってPRを行ってきました。インスタグラムでは「うまかろーま」を使ったレシピなど最新情報を逐次更新しています。このような活動の結果、2024年11月に「うまかろーま」としてスタートを切ってから、読売新聞、NHK、各種情報誌で取り上げられて、認知が確実に進んでいます。また、ブランド化支援前に比べると販売価格が3割アップになっています。

企業コメント

今回のブランド化の活動で、うまかろーまの周知・価格アップを実現することができました。また、出荷組合の一体感が生まれるとともに、組合員のモチベーションも上がっています。

今後は、更にブランド価値を上げるために、計画していた施策を継続して実施していきたいと思います。

支援担当者コメント（氏名：武内洋介）



ブランド専門家、弁理士、福岡県八幡農林事務所、北九州市などのご協力により大葉しゅんぎくの地域ブランド化に一定の成果が得られました。今後も当初計画していた施策の実施と、新たな挑戦を継続されることを期待しています。当窓口も支援機関と連携しながら支援を継続させていただく予定です。

新生産方式による茸ブランド展開支援【INPIT 福島県知財総合支援窓口】

企業情報

合同会社移ヶ茸

所在地	福島県田村市		
ホームページ URL	https://www.farmerslunch.com/farmers		
設立年	2020 年	業種	農林水産業
従業員数	6 人	資本金	100 万円

企業紹介

当社は、福島県中心部から東に位置する阿武隈高原の標高 550m の山間部に位置する移地区で、茸のハウス栽培生産、販売を行っています。きくらげ、椎茸をメインに安定生産が難しいとされるマッシュルームも独自栽培技術の導入により生産しています。県内直売所・レストランのほか、都内飲食店への提供も行い、自社生産品のみならず県産茸・マッシュルームの価値、需要を高めています。

相談のきっかけ

「農産品が美味しいのは当たり前」の前提から、他社商品との差別化、環境資源を生かした地域生産ブランドの創成、商標権取得の必要性を感じ、以前 INPIT 福島県知財総合支援窓口を利用された共同企業様からの御紹介で支援がスタートしました。

支援概要

当初はパッケージラベルデザインの商標登録を行う御意向でしたが、まれな栽培環境、地区名称 PR が競合他社との差別化、事業展望に有用と考え、地域性を強調したブランド名の創作、商標登録（第 6871354 号）支援を行いました。また、商品卸先飲食店と協働で考案した商品名の商標登録（第 6877983 号）支援も行いました。



さらに、栽培環境・装置への積極的な技術導入を行っている背景を踏まえ、新方式の開発にテーマを移行しました。直近の課題であるエネルギー供給については福島県産業振興センター（渡邊様）、作業負担の軽減をかなえる用具・工程の開発に向けては福島県ハイテクプラザ（加藤様、根本様、松本様）の技術支援を導入しました。

また、収量増加、販路拡大等の事業拡充に伴う法人化計画があることを把握し、福島県よろず支援拠点（湯田様）へ支援を依頼しました。社内規定・就業規則・組織図の作成、会社のコンセプトや目標の設定について取り組んでいただき、2025 年 1 月に合同会社設立となりました。

支援成果

コスト管理と徹底した導入技術の改良を重ねた結果、肉厚で香よい食べ応えのある茸を収穫できるようになりました。販売所での対面販売の工夫や商標権活用による知名度獲得に付随し、良質な商品としての評価と認知が広まって取引が増加しました。東日本大震災の風評被害により途絶えていた県産マッシュルーム生産も復活し軌道に乗りました。法人化により事業拡充体制が整い、当社商品が更に広がる展望が期待できます。

企業コメント

これまで自社による出願経験がなく、同窓口の御支援により無事 2 件の商標登録を行うことができました。自社の茸とブランドを認知してもらい、たくさんの方に食べていただけるよう商標権を活用していきたいと思います。今後は前職で得た製造業ノウハウを農業にも生かし、新たな技術導入・改良を行っていきたいと考えています。引き続き御支援をお願いいたします。

支援担当者コメント（桑名志津子）



顧客ニーズに応えるための品質向上、生産量増加を目指し、事業課題、改革意識を持ち続けチャレンジする姿勢がすばらしいと感じております。ブランド強化と併せ新たな実証、技術導入に向けた知財面のサポートを継続して参ります。

シャイントマトファーム

所在地	岡山県笠岡市		
ホームページURL	https://shop.shinetomato.com/about		
設立年	2022年	業種	農林水産業
従業員数	3人	資本金	—

企業紹介

当社代表の①世界最先端の科学的なオランダ式農業の学び、②有機肥料会社や乳酸菌を研究する大学との強い繋がり、③有名なミニトマトブランド会社での栽培・販売経験から、2022年9月に岡山県南西部の瀬戸内海に面した笠岡の干拓地に、手頃な価格で買え、機能性成分を含むおいしく輝くミニトマトを栽培、販売する当社を創業しました。

相談のきっかけ

自信を持って同社のミニトマトを日本中の人々に食べてほしいとの思いから、同社のミニトマトをブランド化したいと考え、INPIT 岡山県知財総合支援窓口に商標出願の相談がありました。その後、創業準備やプランティングについて提案し、多くの機関と連携して支援を行いました。

支援概要

まず、商標出願を支援して「シャイントマト」等4件を出願しましたが、3件が拒絶理由通知を受け、専門家（森寿夫弁理士）を活用して支援しました。うち1件は、今後の海外展開を見据え岡山県産業振興財団の中小企業等国外出願支援事業を利用して外国出願しました。

また、プランティング専門家（白石辰子氏）の支援も受け、商品コンセプトの策定や有名な百貨店・レストラン等への販売戦略の構築等でプランティングの明確化を図りました。

さらに、岡山県中小企業支援センターへの資金調達の相談、笠岡商工会議所や岡山県よろず支援拠点の補助金の活用も提案しました。

支援成果

4件の商標登録（商標登録第6705482号他）を取得しました。

また、商品コンセプトを明確化しプランティングしたことでの百貨店・レストラン等への販売が定着したこと、岡山県等が主催する「ベンチャーマーケット岡山」でビジネスプランを発表し、事業拡大時に相談先（銀行、投資家）も見いだしています。



企業コメント

INPIT 岡山県知財総合支援窓口で知財活用や連携について多くの提案をしてもらいました。そのおかげで創業後も順調にミニトマトの栽培・販売が進み、創業初年度において事業計画の売り上げ目標の約70%を達成することができました。

今後も知財活用を図り、支援いただいた方に感謝しつつ当社を成長させていきたいです。

窓口担当者コメント（氏名：藤原 直樹）



きっかけは創業準備時の商標相談でしたが、事業の理念や計画を聞いて、支援提案をすると積極的に実行されました。栽培された同社のミニトマトを見た時から成功を確信しました。引き続き、知財支援を継続してまいります。

企業情報

株式会社大川地建

所在地	青森県弘前市		
ホームページURL	https://www.iwakitosora.com/		
設立年	1977年	業種	不動産業
従業員数	5人	資本金	4000万円

企業紹介

当社は昭和52年創業の弘前の不動産業者ですが、もともと住宅団地として開発する予定だった土地を農地として活用することに方針転換いたしました。作物は面積当たりの収益が高く販売戦略が立てやすい苺を選択しました。2020年に「すずあかね(品種名)」の栽培を開始し、ハウス2棟からスタートしました。2022年からは「そよかの(品種名)」を栽培し、100坪のハウス6棟となりました。

相談のきっかけ

生食用国産苺の旬は冬から春で、夏から秋に出回る苺は輸入品が多いのですが、岩木山から流れ込む地下水を利用するなどの栽培に適した環境づくりに取り組み、「そよかの」を立夏(5月)の頃に収穫する栽培に成功しました。上市にあたり商品名をブランド化したいと思い、INPIT 青森県知財総合支援窓口に相談しました。

支援概要

初夏から夏に収穫でき果汁豊富なことから、「そよかの」のネーミングを「立夏 JUICY」に決定しました。専門家（そうべえ国際特許事務所 安保亜衣子弁理士）を活用し商標制度や出願戦略のアドバイスをいただき、商標出願し登録となりました（商標登録第6625602号）。さらに支援により強みを分析してターゲットを洋菓子店とし、その洋菓子店の販場需要に応えるため、早期審査による出願をしました。さらに取引の可能性がある洋菓子店には商標登録出願と同時にその旨を通知し、早めに信用を得ることができました。



支援成果

スーパー・マーケットでの生食用苺の販売は、午前中のうちに売り切れるなど好調でした。また、首都圏で人気の高級タルト専門店や、弘前市内の有名洋菓子店が「立夏 JUICY」を冠した商品を販売し話題となり、一挙にブランドエクイティが高まりました。現在は、農業部門を担当する「株式会社いわきとそら農園」を設立し、苺栽培に取り組んでいます。

企業コメント

農業分野に進出するにあたって「そよかの」を市場投入することにしましたが、ブランド戦略で具体的にどうすればよいか悩んでいた時にINPIT 青森県知財総合支援窓口を知り、相談しました。商標権を取得することでブランドを保護することができ、さらに取引先からの信用も得、売上アップにつながりました。

窓口担当者コメント（氏名：雪田重裕）



農業に参入しても撤退する企業が多い中で、同社は綿密な市場分析とブランド戦略により、弘前市の果物市場におけるブランドを短期間で確立しました。「立夏 JUICY」は青森県を代表するフルーツのブランドに成長する可能性があり、引き続きご支援させていただきます。

JF ぼうぜの地域ブランド戦略支援【INPIT 兵庫県知財総合支援窓口】

企業情報

坊勢漁業協同組合

所在地	兵庫県姫路市		
ホームページ URL	https://boze.or.jp/		
設立年	1944 年	業 種	農林水産業
従業員数	466 人	資本金	110,740 万円

企業紹介

瀬戸内海の東、姫路から南西約 18km の播磨灘に位置する家島諸島の 1 つ。新鮮な海の幸と、活気溢れる港町。瀬戸内海の潮待ち要所として、古くから多くの旅人が訪れる漁業の島です。この坊勢島の漁業協同組合です。総漁船数およそ 900 隻の坊勢島は、1 つの漁港あたりの漁船数が日本一と言われています。

相談のきっかけ

2017 年 7 月、連携先である兵庫県加西市の兵庫県立農林水産技術総合センターから、「坊勢の海産物のブランド保護」に関する相談について、INPIT 兵庫県知財総合支援窓口に知財支援の依頼があり、外部窓口にて支援したことが相談のきっかけです。

支援概要

地域ブランド戦略に強い専門家（永井道彰弁理士）と連携し、坊勢の水産資源の知財保護を目指すための支援、地域ブランド支援、「ぼうぜがに」「ぼうぜ鯛」地域団体商標支援等、坊勢島「坊勢漁協」や坊勢漁協運営の海鮮市場「姫路まえどれ市場」にて複数回の継続支援を行いました。

「ぼうぜ」と平仮名表記に統一し、この平仮名表記の使用を徹底し、周知性獲得に向け積極的なプロモーションを行う戦略で地域団体商標取得ができました。

支援成果

支援の結果、「ぼうぜがに」（商標登録第 6504512 号）と「ぼうぜ鯛」（商標登録第 6504513 号）が地域団体商標として登録され「白鰐鯛」や「華姫さわら」等独自ブランドも商標登録されました。ブランドの統一や地域団体商標登録の相乗効果で知名度が更に向上したこと、テレビ・新聞・雑誌・ネット記事に多数取り上げられ利益と売上増につながっています。



企業コメント

地域団体商標を登録しただけではなく、支援を通じてブランド戦略の重要性を理解しました。ぼうぜ蟹は「ぼうぜがに」、坊勢鯛は「ぼうぜ鯛」で統一、またタグやシールは、主体を「坊勢漁業協同組合」「JF ぼうぜ」に統一して、地域ブランド力の強化につながりました。

窓口担当者コメント（氏名：寺橋敦司）



兵庫県立農林水産技術総合センターと連携し、専門家との協働支援により「ぼうぜがに」と「ぼうぜ鯛」の地域団体商標登録の支援ができたこと、坊勢漁業協同組合の水産物のブランド力向上ができたこと大変うれしく思っております。

地域団体商標の権利取得支援【INPIT 東京都知財総合支援窓口】

企業情報

特定非営利活動法人 銀座ミツバチプロジェクト

所在地	東京都中央区		
ホームページ URL	https://gin-pachi.jp/		
設立年	2006 年	業 種	農林水産業
従業員数	4 人	資本金	なし

企業紹介

銀座ミツバチプロジェクトは、銀座の周辺で働く有志たちがビルの屋上でミツバチを飼い、はちみつを製造する活動です。皇居・浜離宮・日比谷公園で甘い蜜を蓄えたミツバチは、銀座に花や緑をもたらし、都市部の養蜂として多くの困難を乗り越えてきました。銀座ミツバチプロジェクトの商品は、銀座の有名デパートやオンラインストアで販売しています。

相談のきっかけ

「銀座はちみつ」という名前で銀座以外で作られたはちみつが販売されている。模倣品ではないか。」との相談で INPIT 東京都知財総合支援窓口に来訪されました。「ぎんばち」等の商標権は保有しておられましたが、「銀座はちみつ」も商標登録出願したいとのことから、支援を開始しました。

支援概要

「銀座はちみつ」は地域名と普通名称の組合せのため、通常の商標ではなく、地域団体商標を取得する必要があることや、一定の地域でよく知られている必要があることを説明しました。また、商標法第 7 条の 2 各号の出願人の適格性や地域団体商標出願に特有の提出物件について説明し、早期審査に関する事情説明書も含めた電子出願について支援しました。さらに、周知性欠如の拒絶理由への対応方法を説明し、多数の資料を収集し提出していただきました。意見書の作成にあたっては、日本弁理士会が提供する弁理士ナビで商標専門の弁理士を探していたとき、民民契約したことでの早期登録が実現しました（商標登録第 6783053 号）。



支援成果

当初は模倣品対策相談でしたが、その場で対策には権利取得が必要なことに気づき、地域団体商標取得に結びつきました。国内で「銀座」の名称を冠した街は多数ありますが、最も著名な東京都中央区の「銀座」を含んだ初めての地域団体商標の取得は、権利者をはじめ多数の銀座の著名人に勇気を与えました。相談者は出願まで「銀座はちみつ」「銀座のはちみつ」「銀座産はちみつ」等、ばらばらの標章表示で品物を販売していましたが、相談後は標章の統一を行い、現在は銀座の著名百貨店で「銀座はちみつ」やその加工品の売上げを着実に伸ばしています。

企業コメント

私は「銀座はちみつ」で銀座の老舗デパート、ホテル、社交料飲等の多くの企業様と地産地消の実現と商品作成を行って参りました。地域団体商標はその活動を守ってくれるものです。INPIT 東京都知財総合支援窓口でアドバイスを頂戴し地域団体商標を取得することができました。

窓口担当者コメント（氏名：久保 省二）



私にとって初めての地域団体商標出願支援だったため、共に多くのことを学ばせていただきました。大都会「銀座」のビルの屋上で養蜂を行っていることを多くの皆様に知っていただき、自然と人との共生の重要性を知ってもらうきっかけとなれば幸いです。

企業情報

飛騨高山宮川朝市協同組合

所在地	岐阜県高山市		
ホームページ URL	https://www.asaichi.net/index.html		
設立年	1947年	業種	一
従業員数	38人	資本金	66万円

企業紹介

飛騨高山宮川朝市は、高山市市街地中心部を流れる宮川沿いに並ぶ朝市です。伝統食材や、工芸品、四季折々の新鮮な品が早朝から並びます。地域の人も観光で訪れる人も、出店者との高山こぼを交えた会話を楽しみながら、買い物を楽しむことができます。

相談のきっかけ

新型コロナウイルス感染症が拡大し始め、行動自粛により観光業が大打撃を受け始めた頃、再び日常的に観光が楽しめるようになったときにさらに朝市を盛り上げていけるよう、飛騨高山の朝市ブランドとして商標を活用したいと考えられ、組合役員の方からINPIT 岐阜県知財総合支援窓口に相談が寄せられました。

支援概要

商標を活用した組合員の団結や組合事業の活性化には、地域団体商標の取得及び活用が有効であることを説明し、役員をはじめ組合理事OBの理解も得ながら支援を進めました。中部経済産業局から、制度説明、他団体の地域団体商標活用の事例を紹介いただき理解を深められました。地域団体商標登録に必要な資料の収集や、第三者による紹介記事掲載のルール化など出願に向けた助言は、専門家（弁理士）を活用して支援しました。また、手続は代理人に委任し、組合では組合活動の活性化や周知活動に注力されました。

支援成果

組合員の理解の深化、代理人との信頼関係の構築により、2023年2月に地域団体商標「飛騨高山宮川朝市」が登録されました（商標第6668705号）。観光業も徐々に回復し、賑わいを取り戻した朝市をさらに盛り上げるため、地域団体商標登録記念イベントとして企画した「朝市にでんけな？」は毎回募集枠が全て埋まる盛況ぶりで、お試し出店をきっかけに出店者間の交流が増え、早速3事業者の協同組合の準会員加入につながりました。



企業コメント

新型コロナウイルス感染症拡大により観光業への影響に終わりが見えない苦しい時に、同窓口の支援が継続的に得られました。これを機会に組合員自らが地域団体商標の活用方法や組合の活性化について継続的に考え、実行できたことは、今後の活動に対して大きな自信につながりました。また日本各地にある朝市の中で、最初の地域団体商標登録を受けられたことは大変光栄です。

窓口担当者コメント（氏名：渡辺奈津子）



地域の生活と産業に根差した同組合の皆さんの懐は深く、伝統を大切にしつつ新しいものを吸収されています。朝市を通して人や事業者の交流の場を包み込むような印象は、側を流れる穏やかな宮川の流れのようで、これからも知的財産活用を通して応援していきます。

企業情報

NPO法人みんなで豊川市をもりあげ隊（事務局 豊川市観光協会内）

所在地	愛知県豊川市		
ホームページ URL	http://toyokawa-moriage.com/		
設立年	2013年	業種	宿泊・飲食業
従業員数	85人（隊員数・賛助隊員）	資本金	一

企業紹介

豊川稲荷の門前町として発展を遂げた愛知県豊川市。いなり寿司発祥の地の一つとされ、オーソドックスな味から創作になりまで豊富な種類を楽しめるのが「豊川いなり寿司」の魅力です。市民のまちおこしボランティア活動が盛り上げてきたブランドは「豊川いなり寿司マイスターの講習」を受けてもらい「市内で製造・販売」しているものを認定し、現在、市内では約50店舗で、約300種類の豊川いなり寿司を提供しており、組合員の経済的地位の向上を図ることを目的に活動しています。

相談のきっかけ

市民一体の盛り上がりを決定付けたのは、平成25年に豊川で開催された第8回「B-1グランプリ in 豊川」で、「豊川いなり寿司で豊川市をもりあげ隊」がホストとしておもてなしの運営に市民も協力したことです。それにより豊川いなり寿司のブランド戦略への理解も深まり、中部経済産業局知的財産室からのご紹介により、INPIT 愛知県知財総合支援窓口の相談員が訪問したのがきっかけです。

支援概要

ブランド化に大変関心が高かったため、特許庁地域ブランド推進室、中部経済産業局知的財産室、専門家（岩田弁理士）とも連携し、「豊川いなり寿司」の周知性を証明するため、新聞記事、ポスター、歴史や沿革を示す第三者の出版記事等を収集し、地域団体商標出願と早期審査申請手続きを支援しました。その結果、地域団体商標として登録され（商標登録第6013646号）、中部経済産業局作成「中部のたからモノ」の地域団体商標活用事例10選にも掲載されました。また、「地域振興キャラクター活用マニュアル」等も紹介し、契約支援を行いました。

支援成果

地域団体商標「豊川いなり寿司」が登録されたことでメディアにも報道され、市長を巻き込んでのブランド戦略への弾みとなり、豊川いなり寿司フェスタ、豊川いなり寿司教室など新たな飛躍を計画・実施しています。また、INPITの商店街支援の広報紙に「豊川いなり寿司」が支援事例として掲載されました。



企業コメント

NPO法人として全国でも4番目に地域団体商標を登録でき、豊川市のブランド戦略として豊川いなり寿司の50店舗を盛り上げ、観光客を迎えるおもてなしイベントなど精力的に活動しております。地域ブランドを育てるトップランナーとして新たな商品づくりの意欲に繋げ、被服などに使用したキャラクターの売上も好調であり、アフターフォローにも大変感謝しています。

窓口担当者コメント（氏名：井上 勝）



まちおこしがNPO法人化の目的であり、ボランティアでお金がない中、ブランド力を高める工夫としてイメージキャラクター「いなりん」、イベントなどグッズ展開を実施されています。隊員にも信頼の厚い女性担当者の方の熱意が素晴らしい、中部経済産業局知的財産室の方のバックアップの協力も得られ、大きな前進を与えて頂いたと考えています。

「のとキリシマツツジ」の地域団体商標取得支援【INPIT 石川県知財総合支援窓口】

企業情報

特定非営利活動法人のとキリシマツツジの郷

所在地	石川県鳳珠郡能登町	
ホームページURL	https://notokirishima.com/npo/	
設立年	2009年	業種 農林水産業
従業員数	2人	資本金 一

企業紹介

当法人は、「のとキリシマツツジ」の保護・保存、調査、研究、情報発信を行い、「のとキリシマツツジ」を核とした能登地区的特色あるまちづくりの推進を目的として設立されました。2004年に当法人の設立母体団体が能登地区的愛好者や育成者に働きかけて名称を「のとキリシマツツジ」に統一し、2021年に日本植物協会ナショナルコレクションの認定を受けました。



相談のきっかけ

「のとキリシマツツジ」は花の特徴から10品種ありますが、そのうち能登固有種3種の名称公募の相談のため石川県知財総合支援窓口への相談がきっかけでした。「のとキリシマツツジ」についてお話を伺うと、江戸時代初期に薩摩藩より江戸に持ち込まれ人気を博し、陸路や北前船による海路により能登に伝来後能登の人々に愛され、現在でも樹齢百年以上の古木が500株以上地元に現存するなどお聞きし、地域団体商標取得をお勧めしました。

支援概要

まず商標取得目的として、高品質な商品（木本、苗木）の提供を行い地域産業発展に資するため、模倣品からの消費者保護を共有しました。出願用提出物件準備では、「地域の名称と商品との関係」について法人が長年取組んできた学術研究成果を簡潔にまとめる支援を行いました。「需要者間での認知度の客観的に証明する事実」について県外での展示即売会の継続的実績はあるものの、同法人が販売している構図の手持ち写真が少なかったことから、報道機関等のネット情報を根気よく調べて準備しました。出願後の拒絶理由通知では周知性とアウトサイダーとの関係を示す情報提供が求められましたが、同法人の長年の活動蓄積に加え、関係団体との良好な関係作りがあり、迅速な情報提供ができ、登録査定に至りました。

支援成果

地域団体商標取得により、関係者が「のとキリシマツツジ」という名前を再認識し、どのように育てていくのかの意識を新たにすることに繋がりました。今後の需要拡大への貢献が期待されます。

企業コメント

江戸時代より300年以上に渡り息づいている「のとキリシマツツジ」は能登の歴史そのものとも言えます。5月連休前後が開花時期です。連休中は能登空港でのイベントや能登半島全域で開催するオープンガーデンで「のとキリシマツツジ」を鑑賞して頂けます。今回の地域団体商標登録支援を通じ、地域の大切な資源としてブランド価値を高めることを考えるよい機会になりました。今後も広く知って頂く様に取り組みたいと思います。

窓口担当者コメント（氏名：池島裕之）



支援を通して「のとキリシマツツジ」の歴史と地元の方々の想いを学び、これら価値をどのように伝えるかを考えました。今後も地域の文化・産業の発展に資する支援を心掛けたいと思います。

水産業普及指導員の皆様の活動にもご利用いただけます！

指導している漁業協同組合への
ブランド専門家派遣（熊本県）



普及指導員会議で知財総合支援
窓口担当者と意見交換（宮崎県）



普及指導員ブロック研修会（九州）
で知財活動に関する講義（大分県）



支援事例（熊本県）



支援事例（宮崎県）



熊本県八代漁業協同組合が球磨川の河口域で養殖している青のりは、新鮮な香りを食卓に届けるため、その形と長さを保つ「手摘み」にこだわり、長さを維持しながら丁寧に真水で洗浄後、まっすぐ籠に並べ乾燥させ、手作業で一つ一つ袋に詰めています。

このこだわりの青のりのブランディングの一環として、「八代青のり」を地域団体商標として商標登録出願することになり、その出願方法について熊本県知財総合支援窓口に相談して専門家（弁理士）の支援を受け出願し、登録することができました。

また、商標が有効に活用されるようブランド専門家のアドバイスを受けることもできました。

知財総合支援窓口を利用して（熊本県県南広域本部）

地域団体商標出願に至るまで大変スムーズに進めることができたほか、専門家のアドバイスにより、取組みの方向性が定まるなど、漁業者のブランドに対する意識が更に高まりました。

宮崎県目井津港に水揚げされる魚は、以前から「めいつ獲れ」として県内はもとより築地市場等へも出荷されていました。中でも定置網で漁獲されるアジは評価が高かったため、目井津を代表する魚としてブランド化しました。

「めいつ美々鯛」と名付けた旬のアジは、知名度の向上とともにさらに引き合いが強くなり、「美々鯛」を商標登録出願したいと考えました。そこで、宮崎県知財総合支援窓口に相談したところ、専門家（弁理士）により登録商標の効力や出願手続きに関するアドバイスを受けることができました。また、作成したポスター等の著作権関係についても専門家（弁護士）の指導を受け、未着手だった権利関係の整理を進めることになりました。

知財総合支援窓口を利用して（宮崎県南那珂農林振興局）

丁寧に対応してくれました。また、信頼できる弁理士にもアドバイスしていただき、出願手続きがスムーズに行えました。

INPIT 愛知県知財総合支援窓口

【ご相談申込方法】※事前予約制

◆電話

052-753-7635 (平日9時～17時)

◆メール

- ①お名前（会社名）
- ②ご担当者名（会社の場合）
- ③郵便番号・ご住所
- ④電話番号（連絡の取れる時間帯）
- ⑤メールアドレス
- ⑥相談の概要

◎担当者から連絡させて頂きますので、①～⑥をご記入の上、下記宛へお申し込みください。
aichi-chizai-info@task-school.com